

AIMGAIN

医療リアルワールドデータ(RWD) プラットフォームシンポジウム

「AMED革新的医療技術研究開発推進事業（AIMGAIN-武藤班）」及び
「がん登録データを活用したリアルワールドデータ収集に関する多施設
共同研究（J-CONNECTプロジェクト※）」合同シンポジウムを開催
ご興味のある医療関係者、企業ならびに官公庁の方々にはぜひご参加ください。

開催日時

2025

10/10

13:00-17:00

開催
場所

京都大学医学部構内芝蘭会館稲盛ホール、山内ホール

※以下のURLの医学部構内マップにある21番の建物です。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-i>

※様々な技術のデモンストレーションがあるため現地開催のみとなります。

プロジェクト関係者



京都大学大学院医学研究科
腫瘍内科学講座

武藤 学 教授



京都大学大学院医学研究科
リアルワールドデータ研究開発講座

松本 繁巳 特定教授

J-CONNECT参画医療機関

25施設

J-CONNECT参画企業

アストラゼネカ株式会社
武田薬品工業株式会社
株式会社NTTデータ

J-CONNECT支援企業

新医療リアルワールドデータ
研究機構株式会社（PRIME-R）

AIMGAIN産学官共同研究企業

NTT株式会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
H.U.グループホールディングス株式会社
ArkMS株式会社
株式会社NTTデータ
富士通Japan株式会社
PSP株式会社
アハクラフト株式会社

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）

AIMGAINプログラムスーパーバイザー
山本 晴子 先生
AIMGAINプログラムオフィサー
中村 健一 先生

当日のプログラム（予定）

1	開会の挨拶（武藤 学）	13:00~13:05
2	ご挨拶（京都大学成長戦略本部企画管理部長 阿曾沼 慎司）	13:05~13:10
3	来賓挨拶（AIMGAINプログラムスーパーバイザー 山本 晴子 先生）	13:10~13:15
4	基調講演「我々が目指す医療リアルワールドデータ(RWD)プラットフォームとその未来」（武藤 学）	13:15~13:35
5	医療データ連携における障壁とその対策（松本 繁巳）	13:35~13:45
6	がん登録データを活用したRWDの創薬への活用可能性（PRIME-R）	13:45~14:05
7	RECIST中央判定システムのワークフロー紹介と今後の展望（キヤノンメディカルシステムズ/ArkMS/PSP）	14:05~14:25
8	医療の未来を支える検査DX：検査（がんゲノム含む）ペーパーレス運用・構造化データ蓄積基盤の提供（H.U.グループホールディングス/富士通Japan）	14:25~14:45
9	PhambielINQによるDCTへの挑戦～医療機関間連携による治験業務効率化とDCT実現を目指して～（NTTデータ）	14:45~15:05
	休憩10分	
10	各企業によるプロジェクトデモンストレーション	15:15~16:15
11	パネルディスカッション	16:15~16:35
12	質疑応答	16:35~16:45
13	講評（AIMGAINプログラムオフィサー 中村 健一 先生）	16:45~16:55
14	閉会の挨拶（武藤 学）	16:55~17:00

本シンポジウムについて

令和5年3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指すこと」が全体目標に掲げられ、それを支える基盤として「がん登録の利活用の推進」と「デジタル化の推進」が分野別目標に掲げられています。しかしながら、わが国における医療データのデジタル化は、先進国のなかでも遅れていることは否めず、実臨床におけるリアルワールドデータ（RWD）の収集体制と利活用の推進が、今後の国民健康の向上と医療開発の発展にとって重要な課題です。

京都大学医学部附属病院では、電子カルテデータを構造化するCyberOncology®^(注1)をPRiME-R社 (<https://prime-r.inc/>) と共同開発し、国内の25医療機関および製薬企業3社とRWD構築のための研究プロジェクトとして『J-CONNECT』を令和5年4月より発足させ、今年度中に院内がん登録症例約25万例のRWDを構築する予定です。

また、令和6年4月に「がん診療の質の向上と研究開発に資するリアルワールドデータプラットフォーム開発」がAMED事業（AIMGAIN）に採択され、1) 電子カルテデータの構造化とRWD収集プラットフォーム構築、2) RECIST自動測定システム（Region Tracking^(注2)）のクラウド化と中央画像判定プラットフォーム開発、3) ゲノム情報などのバイオマーカーのデジタル化とアーカイブシステム開発、4) CRC業務改善やDirect data captureを可能とする治験支援システム開発など、がん医療の向上と医療開発に資するプラットフォームの構築にも取り組んでいます。

つきましては、両事業の取り組みについてご紹介するとともに、ご興味のある製薬企業様や医療系企業様ならびに医療機関様などの新規ご参画を検討いただきたく、両事業の合同シンポジウムを開催する運びとなりました。ぜひ御参加の御検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

※J-CONNECTプロジェクトについて

現在、「がん診療におけるRWD収集に関する多施設共同研究（CONNECT試験）」として、25の医療機関（令和7年8月1日現在）にCyberOncology®^(注1)を導入し、がん診療に関するデータ収集を進めています。また、院内がん登録データを活用した「がん診療に関する院内RWDの網羅的収集および利活用に関する多施設共同研究（CONNECT2）」を開始し、より大規模なデータベース化を目指しております。

これらの基盤をサステナブルなものとするため、参画医療機関と製薬企業等で「J-CONNECT」を立ち上げ、我が国におけるRWD利活用推進に向けた取り組みを進めています。われわれの目指すゴールは、日常的に収集される電子カルテデータを基盤としたRWDを活用し、日々の診療において安心・安全な医療を提供するとともに効率的な医薬品等の開発を推進し国民健康に貢献することです。

(注1) CyberOncology® がん患者の診療情報を標準化・構造化して蓄積することを目的に開発された入力制御アプリケーションを主体とする電子カルテ連携システム

(注2) Region Tracking 抗がん薬等による医療開発において必要なCT等での治療効果評価を半自動で行うシステム

以下のURLもしくは右記のQRコードより、
Googleフォームにて、ご参加の登録をお願いいたします。

参加登録

<https://forms.gle/J4VHsfFM1U1oCo2D9>

※定員を超えるお申し込みがあった場合、参加登録を締め切る場合がございます。

※入力締切：2025年9月19日（金）



お問い合わせ

京都大学医学部附属病院 臨床研究戦略課 事業推進掛
Tel : 075-751-4917
E-mail : 070clinical_bioresource@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



京都大学

KU:IP

J-CONNECT